

# O JAPAN

ORIENTEERING JAPAN

'93/1

1993年〔平成5年〕1月10日発行  
(毎月1回10日発行)  
第10巻第1号通巻第114号  
昭和63年6月24日第三種郵便物認可

シンキングスポーツ・オリエンテーリング



# MALHAM MOOR

Scale 1:15,000 Contours 5m

Ward Senior Home Internationals



	<b>Ponds</b>		<b>Impassable crags</b>
	Indistinct marsh, marsh		Crag
	Stream, ditch		Rocky pit, cave
	Linear marsh, spring		Boulders
			Pile of boulders
			Stony ground
			Limestone pavement
			<b>Contours</b>
			Form line contour, gully
			Knolls
			Depressions
			Small depression, pit
			Minor road, track
			Large path, small path
			Indistinct path, fence
			Walk, ruined wall
			Crossing point, stile
			Building, ruin
			Calm, stone circle
			Rough open land



Photogrammetry: Spring Surveys  
 Survey: Chris Allen and Tony Thornley  
 Cartography: Corinne Hobbs  
 Printing: Collins the Printers  
 through Spring Surveys printing services

Possession of this map does not imply right of access to the area for orienteering or any other purpose. Permission from the landowner must be obtained. The representation of a path or track does not indicate a right of way.

Copyright: © Allentree's 1990

# ○ JAPAN もくじ

93/1月号・No.114

- 特集 早大OC大会 池ヶ谷悦朗.....4-6
- 「都道府県対抗リレーを推進する会」  
の解散について 橘 直隆.....7  
世界選手権(WOC93)  
予備セレクションポイント SQUAD.....7
- =イベント・レポート= .....8  
財間 定義, 小野 盛光  
「第26回真備町OL大会」  
「第9回三重県民OL大会」  
「ASK森林公園OL大会」
- =O-FORUM= .....9  
“12月号の「東日本大会の速報に  
ついて」を読んで” 山西 一徳  
“今、世の中何かおかしい?”  
小川 和之  
“自然食品・エコロジー”  
愛場 庸雅  
“地図作成コストについて”  
大槻 幸男
- 第7回誌上フォト-Oの解答 .....10-11
- クラブ購読(登録)一覧 .....12
- =全国PC愛好会=  
パーマメントコースりぼへと .....13-14  
窪田 宏明, 大高 竜亮  
木佐木輝雄
- “SQUAD通信” “連絡協だより”  
“編集部より” .....16
- [今月の表紙]  
1月2日, 東京都青梅市で行われた「第8  
回七福神OL大会」より, 優勝の多摩OL  
・市川幸次さん。宗建寺=毘沙門天にて。  
撮影: 船橋 昭一
- [今月の地図]  
1990年, イングランドの1ナショナル・イ  
ベント用地図。今年からIOF機関誌の  
“ORIENTEERING WORLD”の編集者となる,  
Clive Allen氏(調査者の一人)から送ら  
れて来たもので, 白無し, 黄一色はこの地  
図だけかも知れない。 所蔵: 編集部

~~~~~ストリーマー~~~~~

今年は.....

また新しい年を迎え、オリエンティアのみなさんも、ある人は競技面で、またある人は普及・発展活動の面で、いろいろな計画や希望を胸に抱いておられることであろう。しかし、不況は長引きそうで、われわれ勤め人にとっては、つらい厳しい年明けであった。皇太子ご成婚も、クリントン大統領の誕生も、あまり関係なさそうだ。特に、アメリカの新大統領からは日本の経済界に何か難題が突きつけられそうな雰囲気がある。しかし、アメリカそのものは景気も上向きにあり、明るい‘兆し’ありとCNNなどは伝えている。その若さ・明るさによる国全体の期待感からか、北米初のWOC開催の年のせいも、アメリカのOL界は、その機関誌“ORIENTEERING NORTH-AMERICA”を見ても、この国のオリエンティアからの年賀状を拝見しても、‘希望’が踊っている。そう、そのクリントン大統領の座右の銘は「明日を考えることをやめるな」ということらしい。若い人だけに言えるような、すばらしい言葉である。日本の政界はともかく、OL界にこのような若い将来に大きなヴィジョンを持った人たちが現れ、今大勢を占めるより若いオリエンティアをリードしていくことが、今、熱望される。コーチングや地図作成や大会の運営など、個々の問題だけでなく、オリエンテering全体をトータルに捉えて、将来計画を立てて実行推進できうる人たちである。20年近くもこのOL界の階段の半ばに居座り続けていては、これまでの踏襲はあるにしても新しいものは出てこないし、それほどの発展も期待できない。それはそれで大変な功績であり、これまでの労苦は報われて然るべきであり、若い人たちも感謝の意を示さなければならないが、その功労の最初は30代の後半から40代はじめてあったのではないか。初期のオリエンテeringの隆盛に寄与したことは大いに称えられる。しかし、10年でも長過ぎると思われるOL組織(中央・地方またクラブを含めて)の役職は、積極的に後進に道を譲るべきである。因みに、外国の組織の上層部は交代が激しい。交代の無い国もあるが、発展よりむしろ後退しているようだ。そして、組織の機構がしっかりしていて、うまく機能している。特に広報や国際的拡がり方がスムーズである。民主的な役員選任や協会等の運営が期待される。

~~~~~流人~~~~~

# 特集 早大OC大会

池ヶ谷悦朗



9年前…

きたる2月21日、埼玉県飯能市で第15回早大OC大会が開催される。

今回の早大OC大会は青梅マラソンと日程が重なり、かなりのオリエンティアがそちらに流れたのか、学生の試験との関係からか、参加者数は昨年より150人ほど減少し、1200人規模の大会となった。

規模が縮小したとはいえ、これで8年連続して1000人以上のエントリーを集めたことになる。これだけの規模をこれだけ長い間維持している大会は、早大OC大会のほかには全日本、朝日、それにインカレしかない。しかし、これらの大会が選手権大会であること、あるいは強力なバックボーンを持っていること、さらには、同一名称であっても実質的には毎年異なるクラブ等が主管していることを考え合わせると、早大OC大会のこの規模は特筆に値するのではないだろうか。

さて、では今年の早大OC大会はいついどんな大会になるのであろうか。

間近に迫った早大OC大会の競技面・運営面での見どころや話題を、早大OCのメンバーのほか、全日本大会の前哨戦となる村越 真・鹿島田浩二の両選手にも取材し、まとめてみた。

## 雪の赤根峠

「東大には雨が、ワセダには雪が、筑波にはヤブの緑が、そして、千葉大には畑の黄色がよく似合う」——各大学OLCが主催する大会の特徴を指して、こ

う言われることがある。

的を射ているような気もしてしまうが、特に早大OC大会に関しては、この言葉は事実とは随分かけ離れている。なにしろ過去14回の早大OC大会の歴史の中で雪が降ったことは、たったの1回しかないのである。

その1回が、今を去ること9年前の第6回早大OC大会『赤根峠』（埼玉県飯能市・東京都青梅市）である。

大会前日の天候は晴れ。確かに、その年は雪の当たり年で、前日試走の段階でもテライン内には積雪はあったが、レースに支障をきたすほどではなかった。むしろ、役員の間心事はゴールとなる校庭のぬかるみ対策であった。

ところが、大会当日の早朝から雪がちらつき始めた。とは言っても、パラパラと舞う程度で中止を考えるような降り方ではなかった。今日、大会中止の判断基準の一つになっている大雪警報も発令されてはいない。参加者が会場に到着する頃になっても道路に積雪は見られず、スタートは開始された。しかし、その後雪は次第に強くなり、まもなくバスはチェーンなしでは赤根峠の峠道を越えられなくなった。会場行きの貸切バスは遅れがちになり、参加者からはクレームが寄せられた。しかし、そのクレームの内容と内容というも「順延して再レースにせよ。」というようなものではなく、「バスの遅延の分だけスタート時刻を考慮せよ。」というものであったという。

そうした中、特に2人の参加者がかなり危険な状態で発見された。一人は民家

O-JAPANをより魅力的なものにするためには、読んでトクする、読んで面白い、あるいは、読んでためになるものにして行かなければならないと思う。

そのためには「あらかじめ打ち出されたテーマに基づいて取材された記事や投稿から成る、一步先を捉えた読みもの」が必要だと私は考えている。

具体的には、近年インカレについて、宇治橋君や天野君らが書いているような「予想もの」の特集記事が、もっとほかにも、たとえば一般の大会についても、あったら面白いのではないかと思うのである。

そこで、この「特集 早大OC大会」を企画し、執筆した。エスカレートする「我田引水」ぶりに、私自身ためらいを感じないではないが、一つの記事のプロトタイプとして、提示したい。

の数地内でうずくまっているところをその家の人に、もう一人は軽装で出走して山中で意識を失いかけていたところを通りかかった別の参加者に発見された。山中で発見された人は救急車で病院に運ばれ、そのまま入院する事態となった。

「早大OC大会=雪」の構図が今なお語り継がれているという事実は、いかにこの第6回大会の雪が激しかったかの証であるとも言えよう。

## テライン

第15回早大OC大会の要綱には、「本大会はO-MAP『赤根峠』、『榎坂峠』の周辺地域で開催致します。」と明記されている。つまり、これまで述べてきた「雪の赤根峠」での開催なのである。

もう一方の『榎坂峠』は平成元年のインターハイのテライン。『赤根峠』と約半分は重なるが、さらに山奥に広がっているため、より急峻である。

この一帯には住宅都市整備公団の大規模な開発が入っており、大会の開催は困難であると噂されていたため、ここでの開催を意外に思った人も少なくなかったようだ。

早大OCが出版している『テラインガイド』を見ると、これらの両テラインについては「斜面はかなりきつく1万5千分の1（で等高線間隔5mの）のマップにしては限界と言えるかも知れない」、「植生も急峻な割にはそれほど良くない」などと記されている。

競技責任者の武田 光は「植生はいい所はいいです。でも全般的にはそんなにいいとは言えない……。なにかと制約が多いテラインでセッティングはむずかしいと思いますが、距離を短めに抑えて、ハイレベルなレースを提供したい。」と語る。

いずれにせよ、根性勝負になることは間違いないさそうである。

#### 村越VS鹿島田 全日本H21E直接対決前哨戦

きたる3月の全日本大会では、ついにH21Eクラスでの村越 真と鹿島田浩二の直接対決が実現する。今シーズンの2人の対決は東日本大会での1回だけで、村越が勝っている。早大OC大会では、一昨年の第13回大会（静岡県御殿場市『乙女道路』）で鹿島田が優勝。1段低い表彰台に立つ村越の姿が印象的だったが、昨年の第14回大会（千葉県山武郡『両総用水』）では、今度は村越が2位鹿島田に大差をつけて快勝した。

そこで、今年全日本大会、そして、その前哨戦としての早大OC大会に向けての抱負を二人に電話でインタビューしてみた。

「もう、とにかく勝てるだけ勝ちまくる。勝てるうちは全部勝っておく。」と開口一番に村越。

全日本については「今シーズン、彼に全敗したとして、全日本では、ようやく互角かなと思っていた。結局1回しか手合わせしなかったけど、それも勝ってしまったし、断然僕が有利でしょう。今年は、彼も勝つ気ではないだろうし。」——挑発的とも思える力強いメッセージが返ってくる。

さらに「彼の場合、（全日本選手権への挑戦は）初めてだし、インカレというハンディもある。こっちは13回も勝っているわけだし……。最近自信になっているのは、圧勝するよりも、思った通りに淡く勝てるようになったこと。2分差で勝つと思っていると、その通りになる。年の功かな。」と続けた。

最後に早大OC大会への抱負をあらためて尋ねた。

「ワセダは『赤根峠』でしょ。傾斜がきついからね。でも、勝てるうちは全部勝っておくつもり。雪が降らないことを祈るだけ。」

村越は9年前「雪の赤根峠」の覇者でもある。HEクラス、11.3キロ。1

時間49分というウィニングタイムがレースの過酷さを何よりも物語っている。

一方、鹿島田もその日『赤根峠』を走っている。H13クラス6位。桐朋中1年の時のことだ。

さて、以前「村越さんに勝つのはステータス。村越さんに1度勝った人はいても、2度勝った人は少ない。」と語った、その鹿島田。ここ3年間の村越との対戦成績は「2勝5敗」というが、ステータスを確固たるものにできるだろうか。

インカレについては別の機会に譲ることとし、全日本と早大OC大会での村越との対戦に話題を絞って尋ねてみた。

「去年（昨シーズン）あたりまでは期が熟していないというか、自分が村越さんに本当に勝てるようになるのはもうちょっと先のことだと思っていたんですけど、今年の村越さんを見ていると去年ほど速さを感じないんです。だから、今年がチャンスかなって。東日本では確かに負けているけど、村越さんのタイムも驚くようなタイムではないし。それに、大した内容ではないんですが、ワールドカップで村越さんに勝って、気を良くしているんです。」——少し考えた後、堰を切ったように一気に語った。

「村越さんは最近ハードなトレーニングをしていないと聞いているんですけど、僕の方は結構充実しているんで、勝てるような気がしています。それから、たまに弱気な発言があるんですよ。だから、やっぱり今年はチャンスかなって思います。」

「ただ、僕も今年スランプで、あまり勝ちを意識し過ぎるとほかの人にも負けてしまうので、あまり上を見ないで守りのレースをしなくては、とも思います。バランスを崩しているんですよ。」——

関東インカレ（8位）や都道府県対抗リレー東京都予選（予選落ち）の失敗にも触れ、チャンスとは言え自分もスランプという複雑な心境をのぞかせた。

村越のメッセージを伝えると、「経験では向こうのほうが上ですからね。それに、全日本となると特別な調整をしてくるでしょうから。本当は僕がスピードとかパワーとかで上に行かないといけないんですけど、そこがトントンくらいだから、僕が勝つとしたら『勢い』でしか勝てないと思うんですが……。でも、村越さんが落ちてきてから勝っても意味がないですからね。向こうが第一線で活躍しているうちに勝ちたいと思っています。」



第6回大会地図「赤根峠」（コースはHE）

早大OC大会については、「OC大会は、僕もキチンと走りたいと考えているので、村越さんもその気なら面白いと思います。「赤根峠」は僕としては好きなタイプではないのですが、村越さんも得意ではないと思うので、そういう意味では面白いと思いますよ。」

勝てるうちは全部勝ちたいと語る村越、相手が強いうちに勝ちたいと言う鹿島田——早大OC大会が、そして、全日本大会が楽しみである。

#### 世界選手権予備選考レースも大詰め

11月号にも掲載されていたが、早大OC大会のEクラスは10月にアメリカで開催される世界選手権に出場する日本代表選手を決めるための予備セレクションレースに指定されている。

予備セレクションを通過できるのは男子20名、女子15名。これまでに、男子では鹿島田浩二と村越 真の2名が、また、女子では福士 淑子、宮川 祐子、木植 早生、出田 裕子の4名が通過を決めている。

残る予備セレクションレースは早大OC大会と全日本大会の2レースのみ。

村越VS鹿島田の対決以外にも、Eクラスには見どころがたくさんあり、目が離せない。

なお、予備セレクションポイントのランキングについては、本号「世界選手権WOC93予備セレクションポイント」を参照されたい。

#### スタートの慌ただしさを解消

##### —全員コントロールカードケース制—

昨年、「日本初」と銘打って鳴り物入りで導入された全員コントロールカードケース(CCケース)制であったが、スタート1分前の慌ただしさやコントロールカードの紛失の懸念などから評判は今一歩で、他大学の追従も見られなかった。

そんな中、早大OCでは、昨年に引き続き今年も全員コントロールカードケース制を採用する。とは言え、昨年の問題点はきちんとクリアされている模様だ。

まず、CCケースの携帯方法。CCケースを使用してさえいけば、携帯方法は問わないとのこと。指に差しても良いし、他の大会と同じように手首に結んでも良いとのことだ。また、位置説明も会場に配布されるから、昨年のようなスタート間際の慌ただしさはもうない。ただ、いつもより心持ち強めにパンチする必要はあるかも知れない。

#### メダルと記念品

早大OC大会は、四大学大会(東大、筑波、千葉、早稲田)の中で、唯一、メダルが授与される大会である。しかしながら、H21Aの申込者数は200名を超え、HEも140名に迫った。H19A、D21Aも100名を超えているという。HEクラスは「要綱で分割しないと宣言してしまった以上、分割はできない。」とある役員は語る。いずれにせよ、メダル獲得への道は、なかなか厳しそうである。

ところで、今回の大会は第15回記念大会に当たるが、早大OCでは大々的な催しは考えていないという。が、協賛のスポーツ用品店からの記念品が15回にちなんだ順位の選手か、表彰式での抽選の結果によって、プレゼントされることになりそうだとのことである。

#### 大盛況の会場申込

##### FAX申込は87名が利用

多くの方は既に御存知だろうが、早大OC大会への大会会場での申込は極めて簡単である。以前に参加したことがある人は、名前を言うのと氏名・住所や参加可能なクラスが印刷されたカードを渡されるので、参加したいクラスに丸をつけて参加料を支払うだけ、というシステムである。この方法が採られて4年、ようやく知られてきた模様で、全部で約500人、筑波大会だけで330人も人が会場申込を利用したという。

さて、本誌9月号で大々的に宣伝されたFAXエントリーであるが、利用者数は3桁に及ばず、87名にとどまった。

これは、本来FAXエントリーのターゲットとなるべき手間を惜むタイプの人たちが、より便利な会場申込に流れたことが最大の原因ではないだろうか。また、FAXエントリーの期間を、郵送申込期間よりも後の、それも5日間という短期間に限って設定したことにも影響されている。

また、入金の手続きを実際以上に難しく思ってしまったたり、FAX申込は費用がかかると思っている人も多かったようだ。

#### 電光速報が充実

毎年、各大学の1年生など、早大OC大会に初めて参加する人たちが驚くのが、成績の電光速報である。

ただ、これまでは表示一巡に要する時

間を短く抑えるために表示対象を各クラスの上位10名~15名に限定していたため、後になって平凡なタイムでゴールしたランナーは一度も名前が載らないで終わることや、ある時刻以降になると内容に変化がなくなり面白味がなくなることなどの欠点も指摘されていた。

今年はハードウェアがレベルアップされたため、表示スピードが大幅に向上し、十分な画面静止時間を確保したとしても、これまでよりも短い時間でより多くの人の成績を表示することができるようになった。そこで、従来の上位者表示モードに、全員表示モードが追加され、完走者全員の成績表示が可能になった。

この新しい電光速報は、筑波大VS千葉大VS京葉OLCの対抗戦(筑波戦)で試運転が実施されたが、「やはり、より多くの人に注目させるためには、より多くの人の成績を表示するのが一番。」という結論に達した。おそらく大会当日は全員表示モードになっていることであろう。

そのほかにも、キロ当たりタイム表示モードや、所属別メダル獲得数表示モードも追加され、午後になってでも退屈しない多彩な表示内容になる予定である。

また、筑波戦では「もう一度メダルの画面を出してもらえますか?」といった風に参加者との対話の中でこれら表示モードの切り換えが行われた。200人規模の対抗戦と1000人規模の大会とは随分勝手が違うが、計算センターは体育館内更衣室に設けられるとのことなので、ある程度は参加者の声に応じて表示内容が切り換えられることになるのではないだろうか。

#### 久遠の理想とは

早大OC大会の要綱にあるメインコピー『久遠の理想』は、早稲田大学校歌の一節である。いったい『久遠の理想』とは何なのだろうか。実行委員長の平岩伸康に尋ねてみた。

「OL界をリードする大会を開き、参加者に十分満足してもらう。でも、このことが理想なのではなくて、そういう気風を持って臨み、それを実現し、そのことに僕たちが満足する。それがOCにとっての『久遠の理想』なんです! 頼もしい返事が返ってきた。

競技に、運営に興味は尽きない。2月21日が大変楽しみである。

好天に恵まれることを願ってやまない。

# 「都道府県対抗リレーを推進する会」の解散について

都道府県対抗リレーを推進する会会長 橋 直隆

都道府県対抗リレー・オリエンテーリング大会が末永く存続し、円滑に運営・競技されるよう関係者に対し必要な助言をすることを目的として、平成2年の秋に設立されました「都道府県対抗リレーを推進する会」は、平成4年末で解散することになりました。

「都道府県対抗リレーを推進する会」は、都道府県対抗リレー大会を思い立った橋が中心となり、前記の目的を達成すべく設立された任意団体です。石川大会が多くのオリエンティアの支持を得られましたことは、側面から援助をさせていただきました我々会員にとって大きな喜びでした。また、選手のオーダー編成法が学生選手権に大きな影響を与えるなど、わが国のリレー競技の改善向上に寄与したことも嬉しいことでした。その後、第2回を開催できるよう東京都に属するクラブと交渉を進めてまいりましたが、明年2月に「全日本リレーオリエンテーリング選手権大会」がJ.O.A主催・東京主管で開催されることになりました。全日本リレーオリエンテーリング選手権大会は、経緯からみて、都道府県対抗リレー大会が発展的に変化したものだと我々は理解しています。都道府県対抗リレーを推進する会の会則には、この会の目的・事業を遂行する公的機関ができた場合この会を終了する、という一項があります。したがって、我々の役目は今後公的機

関におまかせするとして、都道府県対抗リレーを推進する会を解散いたします。

この会では、当初、リレー大会について種々のアイディアがあり、ひとつの案にまとまっていたわけではありません。しかし、細部にかかわる問題点については多くの試行錯誤を覚悟し、2000年の10回大会まで何とか開催し続ける努力をしようと話し合ってきました。したがって、この会の中心的な事業は、今後の開催の可能性について、大会実務を担当していただけそうな方々との根回し的な交渉でした。次回以降についても、これまでの交渉の中で好感とされるものがありました。しかし、これは任意団体と大会開催に意欲を燃やしている個人との口約束のようなものですので、都道府県対抗リレーを推進する会を解散する以上、拘束力の無いものと理解していただきたいと思ひます。

全日本リレーオリエンテーリング選手権大会のますますの発展を祈願するとともに、都道府県対抗リレー大会と都道府県対抗リレーを推進する会に対して激励や支持をしてくださいました多くのオリエンティアの皆様へ感謝しつつ、都道府県対抗リレーを推進する会解散のご挨拶とさせていただきます。最後に、私とオリエンティアの夢を現実のものにするため労を惜しまなかった会員に対し、下に名を挙げて感謝したいと思います。

都道府県対抗リレーを推進する会会員（順不同、勇退会員を含む）

芝 昌宏 (OLP兵庫) 愛場庸雅 (OLCレオ) 小野盛光 (三河OLC) 森田輝雄 (金沢OLC)  
高橋 厚 (多摩OL) 田中 徹 (京葉OLC) 山川克則 (RMOサービス)

## 世界選手権 (WOC 93) 予備セレクション ポイント 12月20日現在

| 【男子】     |    |    |      |    |    | 【女子】     |    |      |      |     |    |     |
|----------|----|----|------|----|----|----------|----|------|------|-----|----|-----|
| 合計       | 埼  | 東  | 千    | 朝  | 筑  | 合計       | 埼  | 東    | 千    | 朝   | 筑  |     |
| #1 鹿島田浩二 | 60 | 20 | (18) | 20 | 20 | #1 福士淑子  | 41 | 13   | (7)  | (5) | 15 | 13  |
| 2 国沢五月   | 52 | 16 | (5)  | 19 | 17 | #1 宮川祐子  | 41 |      | 14   | 15  | 12 |     |
| 3 樋口一志   | 48 | 19 | 19   | 10 |    | 1 宮本知江子  | 41 | (12) | (12) | 13  | 14 | 14  |
| 4 広江淳良   | 46 | 17 | (8)  | 14 | 15 | #4 木植早生  | 39 | (8)  | (8)  | 14  | 10 | 15  |
| 5 鈴木康史   | 45 | 17 | 16   | 12 |    | 5 金子しのぶ  | 33 | 9    | 13   |     | 11 | (6) |
| 6 羽鳥和重   | 42 | 8  | 15   | 19 | 7  | #6 出田裕子  | 30 | 15   | 15   |     |    |     |
| 6 田代雅之   | 42 | 18 | 18   | 6  |    | 7 草野望    | 25 | 6    |      | 8   | 11 |     |
| #8 村越真   | 40 | 20 | 20   |    |    | 7 白井由美   | 25 | 10   |      |     | 3  | 12  |
| 8 滝川英雄   | 40 | 11 | (10) | 18 | 11 | 9 鈴木夕紀子  | 23 |      |      | 6   | 7  | 10  |
| 10 吉田勉   | 33 | 15 |      | 18 |    | 9 渡辺初実   | 23 |      | 10   | 10  | 3  |     |
| 11 井上健太郎 | 31 | 7  |      | 13 | 11 | 11 田島利佳  | 22 |      | 4    | 11  | 7  |     |
| 11 鈴木雄輔  | 31 | 16 |      | 1  | 14 | 11 渡辺弥生  | 22 |      |      | 9   | 13 |     |
| 13 富田吉郎  | 30 | 13 |      | 17 |    | 11 高野由紀  | 22 | 11   | 11   |     |    |     |
| 14 利光良平  | 29 |    | 14   | 15 |    | 14 酒井佳子  | 21 |      |      | 12  | 9  |     |
| 15 河合芳尚  | 28 | 6  | 9    | 13 |    | 15 加納尚子  | 20 | 7    | (5)  | 7   | 6  |     |
| 16 入江崇   | 27 |    | 17   |    | 10 | 16 濱田由紀  | 19 |      |      | 3   | 8  | 8   |
| 16 鈴木卓弥  | 27 | 15 | 12   |    |    | 17 小西陽子  | 14 | 14   |      |     |    |     |
| 18 石井龍男  | 26 | 8  | 7    | 11 |    | 18 三井由美  | 11 | 4    | 2    | (1) | 5  | (2) |
| 19 山岸倫也  | 25 |    | 9    | 8  | 8  | 19 志村聡子  | 10 |      | 6    | 4   |    |     |
| 20 加賀屋博文 | 21 |    | 5    | 16 |    | 20 奥山陽子  | 9  |      | 9    |     |    |     |
| 21 元木悟   | 19 | 12 |      | 7  |    | 20 金並由香  | 9  |      |      | 9   |    |     |
| 21 森内知男  | 19 |    |      | 19 |    | 22 村越久子  | 7  |      | 3    |     | 4  |     |
| 21 菊池正昭  | 19 |    | 6    |    | 13 | 23 小林正子  | 6  | 1    |      |     | 5  |     |
| 24 小河原成香 | 18 |    | 12   | 6  |    | 24 長谷川恵子 | 5  | 5    |      |     |    |     |
| 25 竹内藤雄  | 17 | 10 |      |    | 7  | 24 原和泉   | 5  | 3    |      | 2   |    |     |
| 26 中村弘太郎 | 16 |    |      |    | 16 | 26 石川恵美子 | 4  |      |      |     | 4  |     |
| 27 平井均   | 15 |    | 11   |    | 4  | 27 深田幸子  | 2  |      |      |     | 2  |     |
| 28 中島陽一  | 14 | 14 |      |    |    | 27 船橋亜希子 | 2  | 2    |      |     |    |     |
| 28 村井信哉  | 14 |    |      | 14 |    | 29 岩谷ひろみ | 1  |      |      | 1   |    |     |
| 28 佐藤隆徳  | 14 |    |      | 9  | 5  | 29 三沢おどり | 1  |      |      |     | 1  |     |
| 31 稲葉英雄  | 13 | 13 |      |    |    | 29 清宮秀子  | 1  |      |      |     | 1  |     |



\*: 予備セレクションレース1位により、予備セレクション通過とする。

☆但し、順位は主に速報を基にしているため正式な成績表が発行されるまでは確定されない事をお断りしておきます。

SQUAD・稲葉 英雄

## 第26回 真備町OL大会

- 1992年12月13日
- 岡山県真備町

【旧寺】師走の寒風も、穏やかな感じ。時雨模様も、競技には一寸した支障程度で済み、天候は「合格点の範囲」に恵まれました。

【戸斤】町の教育委員会主催の恒例行事。大会運営は、人脈&信望の面から「OLC吉備路」創立以来、このクラブが委託され、成功を納めている。

当地は、竹林が多く(春には「筍」の主産地となる)、Oマップのタイトルも「竹林」=今回リメイクされたばかり。貴重な宝を生み出す場所は筍が育ち易く掘り易いよう、見事な畑地として手入れされている。勿体ない「黄金のテライン」だ。走行可程度は、100%。

【人】この日の競技参加者数≒105人・運営スタッフ15人。“中四九”ランキング対象大会であり、なかんづく“HA”クラスでは、域内強豪の競り合いが展開された。この日の“トップ2”は…

|        |              |          |
|--------|--------------|----------|
| HA     | ①太田尊司(広島OLC) | 56'26"   |
| 5,200m | ②美藤陽一(広島OLC) | 1'03'37" |
| HA-S   | ①土井孝憲(広島市)   | 1'05'26" |
| 5,900m | ②村上 旦(広島OLC) | 1'17'02" |
| HN     | ①三浦数男(玉野市)   | 1'05'41" |
| 4,400m | ②斉田信夫(岡山県)   | 1'50'05" |

その他、DA・DB・HB・DNは各2人、家族9組、小学生女7組・男4組、中学生女3組・男4組が参加。

島根OC 財間 定義



## 第9回 三重県民OL大会

- 1992年12月13日
- 三重県河芸町

昨年は志摩半島で開かれたが雨にたたられたり、近県の馬籠OL大会とかち合うなど、参加者は今一步だったが、今年は午前中の好天に誘われて、120余名の個人参加者があった。HAは34才以下のHA1と35才以上のHA2に別れているが、今回学生が同じ日に開かれた東海地区のインカレ・セレクションに回ったため、圧倒的にHA2が多く、さしずめ東海地区のシニア選手権の様相を呈した。

この付近は昭和59年に東日本大会が開かれた所。東日本大会の東の部分1/3と重なり合っている。地形は林(山)と耕作地が複雑に入り組んだ所で、位置を失い易い。参考までに、この東日本大会では現・女子エリートランナーである深田幸子と三井由美がD17Cに出場し、2・3位になった。

コースは走り易い農道部分と結構ヤブのきつい尾根・沢の部分があったが、登距離が少ないため、スピードのあるレースとなった。

結果は以下の通り。

|        |              |          |
|--------|--------------|----------|
| HA 1   | ①竹下俊輔(OLC&P) | 62'21"   |
| 6,300m | ②山本耕史(OLC&K) | 1'19'52" |
| 12ポスト  | ③伊藤柱一(三重大)   | 1'33'05" |

(参考) オープン

|              |          |
|--------------|----------|
| 河合芳尚(三河OLC)  | 46'02"   |
| 稲葉英雄(OLC&P)  | 52'56"   |
| 池田俊彦(つるまOLC) | 1'06'43" |

|        |                |          |
|--------|----------------|----------|
| DA     | ①石丸尚子(加め53)    | 1'07'34" |
| 5,300m | ②若松リツ子(中京OC)   | 1'17'31" |
| 11ポスト  | ③松井美紀(岐阜県)     | 1'30'54" |
| HA 2   | ①粟野義明(愛知OLC)   | 47'50"   |
| 5,300m | ②土屋晴彦(愛知OLC)   | 49'12"   |
| 11ポスト  | ③古沢ヒロシ(つるまOLC) | 49'15"   |

三河OLC 小野 盛光

## ASK 森林公園OL大会

- 1992年12月20日
- 愛知県尾張旭市

昭和56年調査の地図と思えないほど、今でも立派に使える地図であり、競技エリアである。2カ月前に東海クラブカップ・リレー大会がここで開かれており、最近急に利用頻度が高まった。ASK(愛知青少年協会)の大会は、昨年20周年記念で2日間大会をニューマップで実施したが、今年は従来の1日大会であった。先週の三重県民大会に引き続き学生の参加が少なく寂しさを感じさせた。HA1でも35才以上のベテランが上位を独占した。

|        |                |          |
|--------|----------------|----------|
| HAL    | ①新家秀男(中京OC)    | 59'35"   |
| 7,400m | ②古沢ヒロシ(つるまOLC) | 1'01'25" |
| 18ポスト  | ③伊藤誠厚(三重県庁)    | 1'02'27" |
| DA     | ①深田幸子(三河OLC)   | 49'20"   |
| 4,800m | ②石丸尚子(加め53)    | 50'17"   |
| 13ポスト  | ③松波由佳(福山女大)    | 57'16"   |
| HAS    | ①野田良雄(中京OC)    | 38'35"   |
| 4,800m | ②坂野晴彦(静岡大OLC)  | 38'37"   |
| 13ポスト  | ③千藤昭彦(中津川OLC)  | 39'01"   |

公園の中を気持ち良く走る場面があるかと思えば、灌木の茂みに悪戦苦闘する場面もあり、公園らしい競技を楽しんだ。広さには不満があるものの、所有者の心配がなく安心して走れる場所としては、このような公園はお勧めである。

三河OLC 小野 盛光





## 12月号の「東日本大会の速報について」を読んで

●西山 一徳 (所沢OLC)

個人記録に関して人為ミス如何に少なくするか常々考えている一人です。

今年度、私は埼玉・小川大会、朝日大会、埼玉県OL協会大会の3大会の計算センターを担当しました。埼玉・小川大会では、運営役員不足から速報の遅れなど大変ご迷惑をお掛けしましたが、朝日大会では、その轍を踏まないよう計セン担当者の確保をしましたので、例年になく早い表彰式ができたことと喜ばれました。

計算センターの作業は、初めからの担当者で、他のパートを終わってからの応援者など、途中から五月雨式に加わってくるためもあり、ミスが生じています。

速報が速く、殆どの参加者に見てもらえたときは安心できますが、埼玉・小川大会のように、見ないで帰った人がいるときは心配です。

このため、各大会とも次の3点の照合を行なっています。

1. ゴールタイマーから打ち出したゴール時刻記録
2. コントロール・カード (CC) を着順シールで並べたもの

3. パソコンに入力したゴール時間を時間順に打ち出したもの

この結果、各大会ともある確率で訂正が生じています。

このようにすると、計算センターに持ち込まれてからの間違えは皆無と言ってよいところまでいきますが、山崎さんが指摘されたように、CC回収時にCCが入れ替わった場合には手の施しようがありません。このミス無くすには、CC回収係が気を付けることしかないのでしょうか。この作業を確実にこなすための良い方法がありましたら知りたいものです。

また、スターターやゴールタイマーがだんだん狂っていくのも困ります。昭和52年度の東日本大会でスタート係を担当しましたが、スターターの出始めの頃でもあり、性能も悪く、どんどん進み参りました。頻りにスターターの時刻を遅らすことに努め、終わってホッとしたことを記憶しています。当時は今のように皆さん良い時計を持っていませんでしたから助かりました。

## 自然食品・●愛場 鷹雅 エコロジー (OLCレオ)

最近のO-JAPANの記事を見てみますと、環境問題、エコロジーなどに興味をお持ちのように拝察します。

実は私もここ2年程、玄米・菜食主体の食事をして体調良好 (OLの成績とは無関係?) になると共に、自然食品、エコロジー、ホステリック医学 (人間を、医療をトータルなものとして捉える)、民間療法、健康法、更には心のあり方といった問題にまで興味を広がっています。あちこちに行く度に各地の自然食レストランやエコロジカルな民宿等に行き歩いています。(後文一略)



## 地図作成コスト について

●大槻 幸男  
(舞鶴OLC)

今、OLの最盛期です。各地で盛んに大会等が開催され結構なことです。当地でも準備を進めておりますが、何と言いましてもグレンデに乏しいことと、地図を作成しても利用する数が少ないので印刷費が回収できません。そのような都合で多色刷りを敬遠して、黒一色になって見づらいつのようになってしまいます。

最近コピー機でもカートリッジを換装して多色刷りが可能なものが出回ってきましたが、色ずれが大きく、3色刷って1mm以内のずれは20~30%程度という粗末な有様。

現在、キャノンのNPを使用しておりますが、資材と時間の浪費に悩まされています。

もし、少量のカラー印刷が簡単なでできる方法をご存知でしたらお教えいただきたいのですが...

一度にカラー印刷ができる高級コピー機がありますが、B5判1枚200円以上につきますので、それも使用できないのが当地の現状です。(後文一略)

## 今、世の中何かおかしい? ●小川 和之 (つるまいOLC)

(前文一略) 廃田が増えていくのがしのびない田口さんの気持ち全く同感です。今の世の中が、何かおかしいことに、多くの人が気づき始めています。最近の牛乳パックや空き缶のリサイクル運動の高まりもそのひとつです。こうした運動をブームに終わらせることなく、地道に発展させることが大切だと思います。米や木材が、国産のものよりも運々海外から運んできたものの方が安い状態は、どう考えても不自然です。きっといつかバブルがはじけると思います。

一方、輸入がもし全部ストップとなれば、食糧は欠乏し、電気は止まり、日本社会は大混乱になってしまうでしょう。山々は薪を取る人で、一冬であつという間にハゲ山となり、自然は今より荒廃してしまうでしょう。

日本は貿易無しでは生きていけない国になってしまったのもまた事実です。貿易で一番恩恵を受けている日本が、コメ

だけわがままを通すのもどうかと思えます。

テラインのあちこちで見られる廃田や間伐・枝打ちのされない植林地がなぜそうなるのか、我々は具体的に何を為すべきなのか、我々オリエンティアが取り組まなければならないと思います。



## 第7回フォト0の解答

昨年(10月号 №111)で出題させていただいた、「第7回誌上フォト・オリエンテーリング」の正解発表をいたします。

応募数は79通で、昨年より10%ほど増え、それに比例して正解者数は40人ちょうどでした。

今回は、出題者自身もそう思っていたのですが、案の定「易し過ぎる」というお声も聞かれました。ただ、ひとつでも自信の無いポストがあると応募を泐られる方が、特にオリエンティアの場合多いと感じられますので、なるべく多数の解答をいただくために、今後も小道や開けた場所、人工特徴物がたくさん記載された地図を選んで、続けていきたいと思えます。

さて、正解は下図のとおりです。

“ペナ”(ほとんど1つか2つ)のついた方々のうち、多いのは③番と⑥番で、惜しい“パラレル・ミス”の分岐違い。③番では先の、そして⑥番では手前か先の分岐にしています。③番は陽影の様子と道の曲がり具合を注意していただければ良かったと思います。出題の前文で、その日の行動と時間を詳しく書きますが、それも参考にしてくださいたいのです。⑧番は向こう側の畑の植生界がいまひとつはっきりしませんでしたね。曖昧で、解答者を悩ませるポストになってしまいました。ひとつだけ参考になる

(出題者の言い訳)のは、小道の分岐地点の向こうの土手に畑への小さな取付け道があることと、どなたか書かれているように、畑の後ろの林が櫛か杉で、日本の場合、これが“白い”場合が多いということです。

以上が今回の出題者の“講評”で、次に正解者のお名前と“ひとこと”を掲げさせていただきます。(敬称一略)

○愛場 庸雅(OLCレオ)

○青柳 嘉祥(OLCサンスーシ)

過去には正解を知らされても、とても信じ難い出題が部分的にあったが、昨年、今年と、現地を知らなくても楽しく考えられるものになり、これならO-JAPAN 後援大会の運営者に協力願うなどして、もっと出題回数を多くできればと思うようになりました。私には、まさに「お待ちかね」の誌上フォト0に健うです。

○天内 健一(青森市)

フォト0L、始めてトライしましたが、結構楽しめました。9/26の大会には必ず行くからと、仙台OLCの三上さんと約束したのですが、同行予定の2人の娘(4才・1才)が、風邪をこじらせてしまい、行けませんでした。このテラインは、実は20年ほど前の3級指導員講習会の2次のテラインでした。その時、一緒に受講したのが、こ

の地図のマッパー菅原さんです。最近誌面が充実してきており、期待しております。

○新家 秀男(中京OC)

昨年はキー・ホルダーをありがとございました。今年は5番ポストが難しかった。ペナかな?

○今留 康雄(北九州OLC)

九州は御承知のとおり、大会など極めて少なく、トレーニングも十分できないので、日頃のそれはデスクでのマップリーディングと体力維持のためのジョグに尽きます。実践はクラブ主催の大会で、ポストセットや撤収で少々楽しめます。そして大会出場はいきなり本番、この積み重ねが練習となりましょうか。とにかく、大会出場前は過去の大会でのHEコースなどの読みに取ります。

フォト0L、これまた変わった地図読みでなかなか面白いですね。今後もしどしし出題してください。

○上野 俊雄(西宮市)

○江部 恭子(新潟市OLC)

○小川 和之(つるまいOLC)

○岡崎 博子(京都潘女子大OL)

はじめまして。今回はじめてフォトオリエンテーリングをしてみました。もともと地図を見るのが好きなので、クロスワードなどのバズルをやりますとやめられないという性格から、真剣になって、なおかつ楽しんでフォト・オリエンテーリングをしました。

やってみて思ったことは、実際の0Lでは、地図を読むといっても、本当にほんの一部しか見ていないことに気づきました。また、今回のポスト①では後方に田が広がっていますが、地図でみると自分がイメージしているより田は広いもので、イメージと実際の地形(ここでは田の広がり方)が如何に違うかよく分かりました。

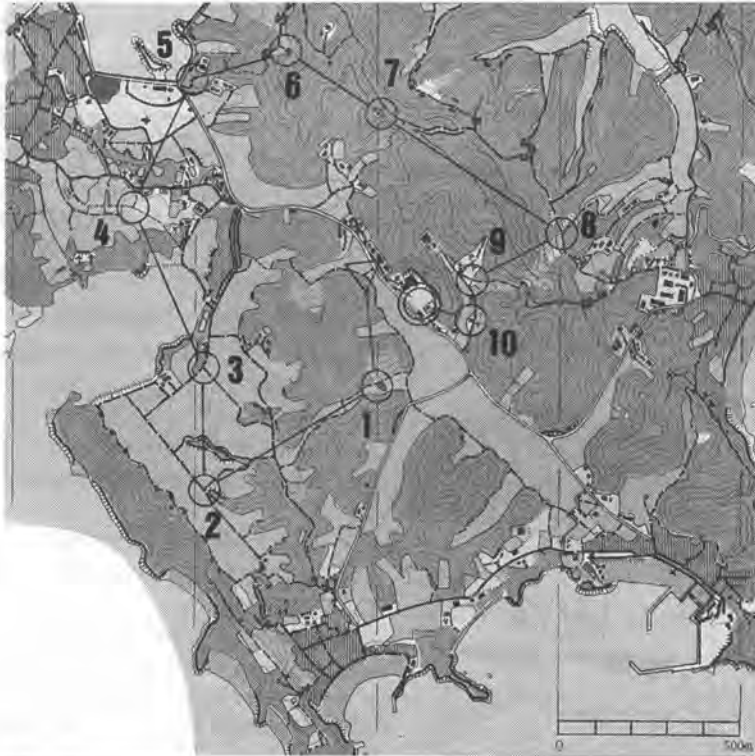
地図からのイメージづくりという点でも、実際の0Lにも役立つし、楽しめるということで、またぜひ次回もやってください。

○小河原 成哲(狭山市)

毎月O-JAPAN を楽しみにしています。今回はじめてフォト0にチャレンジしてみました。だいたい30分位で解けましたが、⑧番ポストはちょっと自信がありません。普段コンパスセットをあまりしない自分にとって、いい勉強になったかも知れません。これからもフォト0は続けて欲しいと思います。できればもっと難易度を上げて欲しいと思います。回数も3ヶ月に一回くらいあるといいのですが。(別に記念品は無くてもいいと思います。)

○尾上 俊雄(OLP兵庫)

O-JAPAN が届いて30分ほど解いていたのですが、送付するのを忘れてしまい、遅くなりました。P③の道の角度が何となくしっくりしませんが、



## フォト—O

よろしく。

## ○川口 匡 (OLCほのくに)

日曜日の休みが少なく、大会へ参加する機会も減り、「フォトO」をエンジョイしています。ただ地図を眺めているだけでは、すぐ飽きてしまいますが、地形を思い浮かべては、「ここだ!!いやこっちだ!!」と探し回っています。いくらロスタイムがあっても、体力の消耗はなく、頭の体操になり、すぐに夜が更けてしまいます。次回を楽しみにしています。

## ○北川卯三郎 (横浜旭区体協OLC)

## ○木俣 知大 (桐朋学園IK)

## ○吉良 清一 (東京都新宿区)

## ○小泉 辰喜 (東京OLクラブ)

今年企画がないのかと思っていましたので、楽しませてもらいました。奥松島は昔行ったことがあり、地図を見ながら当時のことを思い出しました。来年もこの企画を続けて下さい。

## ○小森田 克比呂 (横浜市港北区)

はじめてフォトOにチャレンジして見ました。近くに先生がいて助めてくれましたので。実はNo.⑧は先生の案の方をいただき、③は自分の案の方をとり、他は一致しました。ある程度、地図読みの訓練になるものだと思います。

## ○齊藤 證明 (気仙沼市)

奥松島のO-MAP おかげで入手できましたので、今度家族とPCを回してみたいと思います。

## ○酒井 清隆 (東京都練馬区)

3度目の挑戦で、今年こそ正解でしょう。しかし、「写真」という現地の情報だけでコースを完全に予想するというのは、結構難しいものなのですね。

## ○酒井 克明 (調布OLC)

今回は2日間、述べ2時間程度でできました。今回も楽しませていただきました。次回も楽しみにしています。よろしく。

## ○佐藤 博昭 (北九州OLC)

いよいよ年の瀬となりました。O-JAPAN いつも楽しみに待っております。記事の内容ももう少し技術的な(テクニック等)面が多くなれば…と思います。

さて、第7回誌上フォトOの解答を送りますのでよろしくをお願いします。実は第⑧ポストが少し迷いました。写真の右側手前少しガケが見えますけど、奥の山の植生が良いように見えますので、2枚—①案と②案を送ります(①案が本命のつもり)。

## ○清水 伸好 (タンブラーズ)

いつも心待ちにしていたこの企画。今回も到着と同時に取りかかったのですが、完成したまますっかり忘れ、結局送るのはギリギリになってしまいました。去年はキー・ホルダーをもらって、今年も!と張り切った割りに

情けない。でも全問正解ですよ、きっと。(そうでないときが暇ずかしい)

## ○志村 聡子 (早大OLC)

今回のフォトOLについてですが、(もし、私の解答が全問正解だとすれば)とても簡単だったと思います。(コンパスを使わなくても全部わかりましたから)「この辺りからの眺めは良さそうだな…」とか、「この道は、海を見ながら走れるから気持ちがいいだろうな…」などと、景色を想像して楽しみながら考えました。今回のフォトOも楽しみにしています。

## ○鈴木 俊雄 (福島県鮫川村)

## ○須藤 兼隆 (静大OLC)

我が部の会報と名前が似ているので親しみを感じる。解答は封筒そのものです(地図コピーで複製封筒を作っていたきました=編集部注)。それと私の実家が日野5丁目と編集部の近所なのも少し親しみを感じる。さらに今回の地図の調査者に友人が入っているのも親しみを感じる。静大会もよろしく。

## ○関口 道広 (東京農大OL愛好会)

## ○高野 政雄 (多摩OL)

いつもO-JAPAN を楽しく読ませていただいています。フォトOは、O-JAPAN 誌上いつも見てはいるもの実際にやって見たのは初めて。コンパスで角度を合わせながらポスト位置を推理する作業は、なかなか楽しいものですね。

## ○高橋 厚 (多摩OL)

フォト・オリエンテーリングに初めて応募させていただきました。これまでもやって見ましたが、難しいのが多くて解けませんでしたが。距離はピタリ3.815km、等高線は12本(とりようによっては13本になります)ですので、正解の期待大?

## ○谷口 直夫 (OLP兵庫)

今回は割合易しかったようです。いつも楽しくフォト・オリエンテーリングをしています。今後とも続けてほしいものです。

## ○塚本 英雄 (横浜市緑区)

昨年のフォトOよりも分かりやすいような気がします。ただ、いまいち④と⑤に自信がないのですが…

## ○永田 実 (高槻市)

写真の写りがよいため分かりやすかった。

## ○中村 威 (WINDS)

## ○長谷川 照彦 (OLCサンスーシ)

いつも楽しく読ませていただいています。今年のフォトOは、なかなか出題されないな、もしかしたらもうやめちゃったのかな、だからオレにやらせてくればよかったのにな…なんて考えてたところにやっと。

お待ち申し上げておりました。今回は、わりとスムーズに捜し出すことができました。ただ、コース異議

と、等高線の本数がちょっと違っているのが気になります。いつもドキドキ・ワクワクのフォトOをこれからも作ってください。それから、年1回だけでなく、毎回クイズ・コーナーを設けて、クロスワードや、いま流行っている間違い探し、あるなしクイズなどを載せてみてはいかがでしょうか? え、忙しくてそこまで手がまわらない? フォトOやりたいくらいなら、言い出しっぺのオマエがやられて!

## ○長谷川 博之 (相模OLC)

フォト・オリエンテーリングも応募何回目になると、段々と要領が判って来るようになりました。今回は昨年以上に簡単なので、多分正解者数は50人以上になるような気が致します。(もうすっかり正解者のつもりです)

ポスト①の池が、最初は北部の池と思い込み迷走しましたが、比較的特徴のある③、⑥ポストが判り、確信が付くと⑥、⑦が自然に判って来て、やがて⑨、⑩、ゴールも間違いなくココシカナイ! それでは①はこの鼻クソ池らしい。②は中間にあるこの分岐か、と判り、③の写真に見える昔の岬岩だ! 距離を計算すると、あれっ少し足りないかな? あっ④が抜けていた。正面に開けた場所が見えるからこちらの分岐だろう。これでどうかな? ④が何となく気になるぞ。畑、草地、荒地と角度からすると、こっちの分岐が正しいようだ。距離を0.5mm程度まで計算すれば、254.5mm ビックシダ!! 等高線数は無視して、これで出そう。

以上が 解答(正解!)までの流れでした。

## ○細池 信光 (横浜OLクラブ)

## ○横田 輝和 (三河OLC)

## ○丸岡 広 (調布OLC)

今回は、40分ぐらいかかりました。特にポスト⑥が難しかった。先にポスト⑥を見つけてから、すぐに分かった。

## ○山崎 正治 (東京OLクラブ)

2回目の応募ですが、だんだん易しくなさっておられるのでしょうか。私の読図力が上がったとも思えません。前々回までは殆ど分かりませんでした。

## ○山崎 律子 (板橋OLC)

## ○吉村 年史 (広島大OLC)

さて、正解の方々40名様には、何とO-JAPAN 特製のテレホン・カード(そう、私のこだわりから「テレホン」ではなく、「テレフォン」)をお送りいたしますので、ご愛用・ご保存ください。OL界が発展し、20年後ぐらいにはプレミアがつくように!

(現在作業中ですので、発送はちょっと遅れます。)

田 口 肇

# クラブ購読(登録)一覧

12月31日現在申込み分

| 登録番号          | 県庁 県番号 支部番号      | 正式クラブ名称 (略称クラブ名, ｱﾙﾌﾞ ﾍﾞﾝﾁ ﾈｰﾑ)   | 肩書 代表者名 (任期)          |   |
|---------------|------------------|---|-----------------------|---|
| 県名            | 事務局 (住所, 氏名, 電話) | 創立年(和暦)月  | 会員数 (合計, 男, 女)        | 機関紙 (有無, 名称, 回数)  |
| 2254-08-40903 | 茨城県 ㊟310         | 茨城大学オリエンテーリング団 (茨城大OLD, 緑入)<br>水戸市渡里町2595-5 伊藤 克巳 ㊟0292-33-0615                   | 団長 福留 深 (任期 94年3月まで)  | 1991年(平成3年)6月 会員数 (7名, 男6名, 女1名)・機関紙 (未記入)                    |
| 540-13-40990  | 東京都 ㊟192-03      | 中央大学オリエンテーリング同好会 (中央大OLC, COLC)<br>八王子市東中野742-1 中央大学学友会内 ㊟0426-74-2770 呼          | 会長 上原 正 (任期 93年3月まで)  | 1973年(昭和48年) 会員数 (49名, 男41名, 女8名) 機関紙 (有, 会報COLC, 年4回)        |
| 708-13-40479  | 東京都 ㊟106         | 麻布学園オリエンテーリング部 (麻布学園OLC, AOLC)<br>港区元麻布二丁目3-29 麻布学園校エントランス部 ㊟03-3446-6541-3<br>緑入 | 部長 土屋啓介 (任期 93年8月まで)  | 会員数 (48名, 男48名, ) 機関紙 (有, 不定, 年不定)                            |
| 2262-14-40912 | 神奈川県 ㊟228        | 相模女子大学オリエンテーリングクラブ (相模女子大OLC, KOLC)<br>相模原市文京二丁目1-1 相模女子大学校エントランス部<br>緑入          | 部長 梶 さわ (任期 93年3月まで)  | 会員数 (21名, 女21名) 機関紙 (無)                                       |
| 309-23-40460  | 愛知県 ㊟441-11      | オリエンテーリングクラブほのくに (OLCほのくに, JAHO)<br>豊橋市賀茂町西屋敷22-6 白井 啓 ㊟0432-88-0890              | 緑入 川口 匡 (任期 緑入)       | 1980年(昭和55年)5月 会員数 (14名, 男13名, 女1名) 機関紙 (有, ほのくに, 年4~6回)      |
| 883-26-40884  | 京都府 ㊟617         | 朱雀オリエンテーリングクラブ (朱雀OK, SOK)<br>長岡京市開田三丁目4-7 樋口 一志 ㊟075-951-6958                    | 緑入 樋口 一志 (任期 94年3月まで) | 1992年(平成4年)5月 会員数 (11名, 男6名, 女5名) 機関紙 (無)                     |
| 523-27-40519  | 大阪府 ㊟532         | オリエンテーリングパトロール兵庫 (OLP兵庫, OLP)<br>大阪市淀川区野中南一丁目4-40-726 淀川寮 山本 賀彦 ㊟06-886-7416      | 会長 芝 昌宏 (任期 緑入)       | 1973年(昭和48年)12月 会員数 (70名, 男56名, 女14名) 機関紙 (有, ミスパンチ, 年10回)    |
| 640-34-40273  | 広島県 ㊟720         | 福山オリエンテーリングクラブ (福山OLクラブ, FOLC)<br>福山市向陽町一丁目23-4 堀江 康博 ㊟0849-55-6409               | 緑入 佐藤 忠彦 (任期 緑入)      | 1974年(昭和49年)6月 会員数 (30名, 男25名, 女5名) 機関紙 (有, ルンルン通信, 年12回)     |
| 2057-40-41003 | 福岡県 ㊟813         | 神戸須磨オリエンテーリングクラブ (神戸須磨OC, SUMA)<br>福岡市東区香椎駅東四丁目26-5-302 岩井 馨 ㊟092-683-4031        | 緑入 真鍋 卓也 (任期 緑入)      | 1990年(平成2年)4月 会員数 (19名, 男13名, 女6名) 機関紙 (有, 田野横断(テイヤウガン), 年6回) |

■ 1992年度のクラブ購読一覧の掲載は、これで打ち切らせていただきます。  
4月より新年度に入りますので、更新手続きについて2月号にご案内します。

# パソコンネットワーク

りぼへと



□1992年10月31日(土)

静岡県 No.22 ~ 窪 92-10~

「金谷A」

【距離】 10 km

【ポスト数】 9本 O-MAP

●マップ取扱所: マップや案内書では「沖たばこ店」となっているが、沖さんは他界され、現在は家主のAさんが店の主人。金谷駅を北側に出て右手に少し下がった左手にある。小さくて分かり難いが、何となく昔のたばこ屋の店構え。当然「沖たばこ店」の表示は無い。1部 100円。

●連絡先: 金谷町教育委員会

☎0547-45-5216 ☎0547-46-2111

●マスターマップ: 金谷駅北側出口の右前方、道路の向い側。コース記号は明瞭。

●マップ: 調査期間 1984年8~9月、縮尺 1/15,000 のO-MAP。

●ポストマーク: 標準サイズで管理は良好。

●コース: 金谷駅南方の茶畑が広がる牧の原台地(静岡茶の主産地)を横断する、風景の美しい家族向きのコース。ポスト③までは台地への登りである。

ポスト④は牧の原公園にあり、当日は天気が良く、手前に大井川、遠方に富士山を望む素晴らしい眺めを楽しんだ。ここからポスト⑥までは茶畑の中を進む。道の分岐と方向に注意して進めば、迷うことは無い。時々振り返って茶畑の向こうに背伸びしている富士山を眺めるとよい。ポスト⑦へは一度台地から下り、ポスト⑧に向かって、再び上りとなる。ポスト⑨へは旧東海道の石畳を下る。箱根に比べると規模は格段に小さいが、気分は出る。文政(1818~1829年)の頃、380間にわたり敷かれたが、今はこの金谷坂に僅かに残るのみという。下りの途中から、往時の旅人も眺めたであろう素晴らしい景観(人工物は別として)を楽しめる。変化に富み、静岡らしい雰囲気包まれたよいコースである。出かけるのは天気の良い日に限る。

なお、金谷駅からは大井川鉄道のSLが運転される。せっかく金谷に行くならば、時刻表で確かめてOLのスタート後、ポスト①から②へ行く前にSLの発車風景を見るようにすれば、レールファンでなくとも楽しさが増すだろう。

□1992年11月2日(月)

長野県 No.20 ~ 窪 92-11~

「車至井沢B」

【距離】 8 km

【ポスト数】 8本 O-MAP

前回は9月15日にポスト⑥、⑧(雲場池南端)、⑦(鹿島の森)を回っていたので、今回は残りを回った。もみじの紅葉、落葉松の黄葉、それに常緑樹の緑の織りなす風景はまさに圧巻。前回の緑一色とは雲泥の差で軽井沢に来るならこのシーズンが最高(自然の色彩が豊かという点で)。浅間山の山頂には既に雪が来ていた。さて、ポスト⑥は難山の北側を西に向かって上ると、中軽井沢への分岐点に寂しく立っている。更に上ると、北から西南西へと向きを変え、最後の下りの始まるあたりにポスト⑤が道の分岐点にひっそりである。ここからポスト④まではずっと下りである。ポスト③から②へは国道よりも川の東側の尾根の先端を横切る道を行く方が良さそう。ポスト①は信越本線の線路に近い。このコースはやはりポスト①から番号順に回る方が良いだろう。ポスト③までに適当に浅間山が見える筈である。この日は朝早く見えていた冠雪の山頂の南側だけに午前中ガスが発生して残念であった。(東丹沢の大山に落雷した日=11月1日=に浅間の山頂はうつつらと雪化粧をした)。このコースの難点は、せっかく山の中を通るのに道路がすべて舗装され車が通ることで、全く興ざめである。しかし、別荘地への脚の確保となればやむを得ない。

リポーター:

〒191 東京都日野市多摩平 5-2-43

窪田 宏明

□1992年10月31日(土)

福島県 No.15 ~ 大高 92-10~

「習志野・赤弓山」

【距離】 9 km

【ポスト数】 10本 O-MAP

東北自動車道「白河」ICより車で約40分、「湯本青少年旅行村」がスタート地点でマップがある。バスは「須賀川」駅からあるようだが未調査。外にあるマスターは判読可能だが番号が記されていないので、富田さんに頂いたコピーに従って回った。コースは大半が別荘分譲地のなかの単調な舗装道路で至って簡単。周りの景色はどれも同じような感じである。ただ遠くの山の眺めはなかなか良い。②へ向かう小径は全く分からなかったが、林の通行可能度は大変良いので構わず歩いていくと道に出る。②の直前は笹が茂っているが、膝程度の高さなのでそれほど問題ない。さて、ポストの状態だがこれが非常に悪い。④⑤⑥⑦は3面真っ白で、記号が書かれた紙がガムテープで貼り付けてあった。③⑨⑩も辛うじて記号が判読できる程度。交通が不便なこともあって殆ど利用されていないようである。1時間半で終了した。この後、新設された「蓋沼森林公園」コースのマップを県協会の氏家盛信さんから頂いたので現地を訪れたのだが、ゲートを2時半に閉めてしまうというので諦めた。因みに「会津高田」駅からバスはないとのことであった。

(福島県OL協会 ☎0243-22-5593)

□1992年11月1日(日)

福島県 No.18 ~ 大高 92-11~

「沼沢」

【距離】 8 km

【ポスト数】 8本 O-MAP

会津若松から車で1時間、または只見線「会津水沼」駅から徒歩40分「金山町自然休養村センター」がスタート地点。自然休養村センターは10月31日で年内の営業を終えてしまうとのことだったので、マップは郵送して頂いた。外のマスターは明瞭。「通戸の一里塚」に①がある。②~③は送電線沿いなのでそれほど問題ないが所々荒れたところがある。④

へはこの時期でも非常に苦労した。杉の植林地に出るまでの小道は手入れが行き届かず荒れ果てている。大雨のなか草をかき分けて進んだ。植林地に出ると視界が開け安心だが、その後どういふ訳か次第に小道がはっきりしなくなり、いつの間にか沢を登っていた。②③④は冬の雪の重さに耐えかねたのか、壊れていた。⑤の途中までは林道を辿るだけで容易。⑥への小道のすぐ東に出る道路は、民家の横を過ぎると荒れはじめる。⑦へも苦労した。⑥から急な下り坂になり、そのうち小道が分からなくなってしまったので見当を付けて沢に向かって下って行った。ただでさえ大変な急坂の上に大雨が重なり、何度も足を取られながら木に捕まってやっとの思いで沢に辿り着いた。ところが小道は沢の上であり、また少し登らなければならなかった。小道に出られれば後は安心。⑦からは沼沢湖沿いで霧に霞んだ幻想的な景色が今までの苦労を忘れさせてくれる。⑧は「沼御前神社」。設置されてからまだ4年ほどのコースだが、しっかりした管理がなされていないようである。ポスト記号は余りに芸がなかった。

(金山町自然休養センター

☎0241-55-3140)

□1992年11月23日(祝)  
岩手県 No. 19 ~大高 92-12~  
「岩手県市市北山」  
[距離] 9 km  
[ポスト数] 10本 O-MAP

「盛岡」駅下車。岩手県交通バス11番乗り場から「黒石野」経由「松園営業所」行き(頻発)で「高松の池口」下車。料金190円。一旦戻って左折し、案内に従って三叉路を右折するとスタート地点である「盛岡ユースホテル」がある。バス停から3分程の距離。マップもここにあり、外のマスターも明瞭。市内の低い丘と住宅地を縫って歩くコースで易しく、小径も良く整備されている。2年前に設置されたばかりなのでポストも新しい。⑥は「愛宕山」にあり、展望台からは市街が一望できる。⑨は「聖寿寺」にあり、⑩へ向かうときに通る裏山には南部家の墓所がある。禁猟区なのでこの時期でも問題なく回れる。雪も多少

なら大丈夫だろう。高松の池は桜の名所だそうだから春先がお薦め。

(盛岡ユースホテル ☎0196-62-2220)

リポーター:

〒344 埼玉県春日部市武里団地5-23-503

大高 竜亮



□1992年11月22日(日)  
長野県 No. 9 ~木 92-14~  
「五竜とおみ」  
[距離] 8 km  
[ポスト数] 5本 O-MAP

JR大糸線「神城(めし)」駅または「飯森(いもり)」駅下車。ただし特急は「飯森」(無人駅)には停車しない。「神城」駅で下車した場合、駅舎の横にポスト①が立っているが、これは1993年春までは無関係である。「神城」駅周辺には現在のところMAPもマスターも無い。「飯森」駅で下車すると、駅前に大きな案内板があり、お土産屋「マン・アミー」と「長谷寺(はなび)」が明記してある。駅から「モン・アミー」まで7分ぐらい。

MAPは「モン・アミー」にある。私が行った日はなぜかマスターが無かった。幸いにも富田氏のコピーを持参していたのでスタートできた。マスターの掲示板は「長谷寺」にあったが○印とNoは消えていた。MAPは1/20,000のO-MAPで精度は95%ぐらい。④のあたりは別荘が増加して舗装道路がMAP以上にある。

コースは山30%、畑30%、林(別荘地を含む)40%で、標高差は100mぐらい。別荘地が多いため道は良好。ポストは標準で鮮明。①-③は「塩の道」(千国街道)の一部である。⑤は一夜山(いっしやま)の山頂にあるが、道から5mほど内側にあり、夏は草に隠れてしまうので注意。一夜山は飯森城の跡で、井戸跡や馬屋跡がある。一夜山の西麓にはテレキャビン(ゴンドラリフト・全長2000m)があるので時間の余裕があれば乗ってみるのも一興。

[特報] 1993年春からポストが10本になり、「神城」駅周辺にもMAPとマスターを置く。すでに新ポストは設置しており、「神城」駅前のポスト①はその中の1本である。

(信州塩嶺高原開発 ☎02617-5-2101)

□1992年11月23日(祝)  
長野県 No. 8 ~木 92-15~  
「安曇里予みあさ」  
[距離] 10 km  
[ポスト数] 10本 O-MAP

JR大糸線「信濃大町」駅下車。駅前広場の向こう側のバス停から「善光寺大門」行きバスに乗り「新行」下車、約2分。

【バスの時刻】

信濃大町発

(平日) 7:25 9:40 11:00 12:10

(休日) 7:25 9:40

新行発

(平日) 13:00 15:55 17:00

(休日) 14:15 16:30 18:45

MAPとマスターは「新行」バス停前の種山商店にある。MAPは1/20,000のO-MAPで、精度は92%ぐらい。MAP上の点線の小道が実際には消滅している所がある。

コースは山60%、畑20%、林10%、舗装道路10%で、標高差は100mぐらい。率直に歩けばヤブコギのようなひどい所は無い。ショートカットはあまり考えない方がよさそうである。ポストは標準の大きさだが、老朽化したものが目立つ。特に①⑦⑧は赤の痕跡も消え去り、記号の判読がやっとといった状態である。⑧の背後にはブルドーザーの押し出した土砂の崖が山のように迫り、⑧の悲鳴が聞こえそうな有様である。

難解ポストは無い。⑩の位置の意味が不明。△-⑩-①-②-③-④-⑤-⑥-⑦-⑧-⑨-⑩のように回ってみたが、良かったような気がする。

(川中島バス ☎0262-21-6000, 6100

種山商店 ☎0261-23-1832)

リポーター:

〒185 東京都国分寺市泉町 3-5-104

木佐木 輝雄

## 植物性

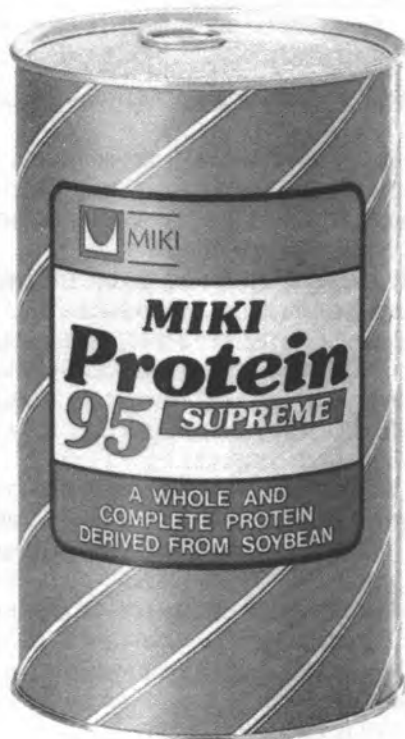
- 持久力・体力……健康の維持
- ノンコレステロールです

## プロテイン95

- 皮膚・毛・目・爪・筋肉組織・分泌腺・血・
- ホルモン等すべてプロテインで出来ている

## レシチン

- 脳神経系統内分泌腺及び心筋成分
- コレステロール分解



● お問合わせはO・J・A・P・A・N編集部まで

## オリエンターリング地図印刷

社内報 団体・サークルの機関紙 記念誌  
PR誌 学校新聞 句集 歌集 詩集

あしび印刷 有限会社

〒220 横浜市西区西戸部町3-298  
神奈川県教育会館前  
☎045-231-5970 (代)

## SQUAD通信

## □冬のSQUAD Jr. トレーニング

例年同様、92年の冬もSQUAD Jr. トレーニングを開催しました。

今回は、12月26～28日、富士宮の「山宮」で行いました。コーチは、竹内藤雄、ノルウェーから一時帰国している丸山哲史、そして稲葉英雄の3人。生徒の方は、麻布を中心に中学生9人、高校生10人で、全員関東の学校でした。

宿はお馴染みの「西の家」で、全く同じ日程で東海学連と筑波大の有志が合宿をしていました。今回のSQUAD Jr. は、車が1台も無いなど、いろいろな面で準備不足でしたが、筑波大と東海学連の方々より多大な援助(地図、設置済のコントロールの一部使用、テラインまでの輸送、夜のメニューの材料など)をいただき、いつもと同様密度の濃い合宿にすることができました。筑波大と東海学連の皆さんどうもありがとうございました。

メニューを簡単に紹介しますと、初日がコンパスと歩測による直進の練習と1kmほどのクロスカントリーレース(初日は地図が無かった)。2日目が、直進の練習、サーキットOL(短いポイントOL)4本、3つのグループに分かれてのランニング・オブザベーション。最終日は、3つのグループに分かれて一斉スタートによるファシユタ形式(一部のコントロールが人によって異なっている)を1本(約5km)行いました。夜は、東海学連から分けてもらった粘土を使っての等高線と地形の対比や、スライドによるルート・プランニングの練習など行いました。

なお、1日目の行きと帰り、2日目の帰りは、5km～8kmほど離れた宿とテラインの間を走って移動したので、生徒たちは、1日目は約15km、2日目は約20km走ったことになります。



SQUAD Jr. トレーニングとは、SQUADが主催する行事の1つで、中高生を対象として毎年夏と冬に開いています。

SQUAD・稲葉 英雄

## 編集音部より

◆今年には新年号らしく10日過ぎぐらいに発送したいと、暮れのうちには張り切っていたのですが、やはり正月勤務など多忙が続き、ダメでした。◆それと、新年号らしく例年どおり編集者の「抱負」のようなものを2～3ページ書いたのですが、▲さんから池ヶ谷さんの寄稿が入るとのこと。来年にまわしました。あと7年となった西暦2000年の新春の時点にタイム・スリップさせて、その時のOL界の状況=理想=夢、という内容です。◆夢と言えば、若梅さんからFAXが入り、いろいろな用件連絡のついでに、『O-JAPANの今年の夢』がありました。①冊子=94年1月から、カラー表紙になる ②主催大会の開催=10周年を記念して ③海外ツアーの企画・主催=アメリカ世界選手権関連とニュージーランドAPOC ④ランキングの表彰=主催大会にて表彰式を行なう。◆いかかでしょうか。この内③は皆様のご希望が多ければ正夢にしたいと思います。 <流人>

## 連絡協だより

## □北信越オリエンテリングクラブ連絡協だより

前回に引き続き、平成4年6月以降の北信越OL連協の活動状況等について、ご報告させていただきます。

北信越OL連協の活動が徐々に浸透してきました。連協練習会の開催が定着し、北信越地区で開催されるOL大会にも多くのクラブから参加していただいております。平成5年も、この調子で頑張っていきたいものだと思っています。

H4. 6.27 連協ニュース第3号発行

10.25 第4回連協練習会 主管:金沢大OLC (石川県津幡町「義屋越」) 9名参加

11.22 第3回富山OLK大会<北信越OL連協後援>主管:富山OLK (富山県小矢部市「蟹谷」) 138名参加

12.8 第5回連協練習会 主管:金沢OLK (石川県小松市「一口生水」) 37名参加

この中で、機関紙(連協ニュース)の発行が少なく、反省しています。また、第4回練習会は、天候が悪かったためか、参加者は最も少なくなりました。

さて、第5回練習会では、連協初めての試みとしてクラブ対抗戦を開催しました。参加クラブは、金沢OLK・小松市OLK・金沢大学OLC・富山OLK・富山大学OLCの5つのクラブで、ルールは、クラスに関係なく上位4名の合計タイムで順位を決定しました。結果は、金沢大学が金沢を押さえて優勝し、以下富山、富山大学、小松の順となりました。対抗戦については、工夫の余地が残されていますが、今後も開催していきたいと思っております。また、大会や練習会の成績をもとにして、連協内でのランキングの決定も企画したいと思っております。

今年、3月上旬に第6回練習会(金沢大学主管)、4月に金沢大学大会・新潟大学大会の開催が決定しているほか、秋には新潟で朝日大会・福井で東日本大会がそれぞれ予定されています。

今後とも、連協内でのOL大会・練習会に積極的に参加するとともに、他の地区における連絡協議会とも交流を持ちたいと思っております。

文責:富山OLK 山口 敏夫

たくさんの方の年賀状をいただき、ありがとうございました。本年もO-JAPANをよろしくご支援くださるようお願い申し上げます。ご投稿・写真なども、お待ちいたしております。

編集部

O-JAPAN

発行人/田口 昭子

\* 購読料 年間4月～3月 ¥3,000

\* 編集責任者/田口 肇

〒233 横浜港南区日野南7-9-5

\* (高校生以下) ¥1,800

\* Chief Editor: Hajime Taguchi

TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500

\* '92.10月～'94.3月 ¥4,500

\* Editorial Address:

(Annex) 0287-77-1977

\* 1部あたり頒布価格 ¥250

\* 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

郵便振替口座/横浜7-46870

(加入者名) O-JAPAN 編集部

\* Yokohama, 233 Japan